

登録番号	イニシャル ペネーム	メッセージ
1735	S.H. 様	私が大学で解剖学実習を受講してから、はや半世紀余りが過ぎました。医者になってからも、あの時の体験を忘れる事はありません。私にとっては、いつの日も医学の道を歩む道標であったように思います。これから医師を目指す若き医学の徒の役に立てる日も、そう遠くないことでしょう。貴校のますますの発展をお祈りしております。
2976	C.I. 様	亡くなった姉が生前から献体登録をしており、自身の身体を学生のための教育や医学の発展に役立て貰え、社会貢献できる事に共感できたため。
3094	M.K. 様	<p>「献体に至る動機について」</p> <p>昭和二十八年と言えば歴史的な時代になります。私は神戸医大付属高等看護学院に入学しました。解剖生理学の実習で初めて遺体を見た時の怖かった事は忘れられません。ツーンと鼻をつくホルマリンの異臭と、何人もの学生によって切り裂かれた死後何日過ぎたのか解らない遺体に嘔吐する学生もいました。</p> <p>今では清潔で設備の整った教室であろうと思います。しかし実習に当たって学生の皆さんがまず尊厳の精神を養われたと思えるでしょうか？当時の私は恐ろしい物体に触れた感覚しかない状態でした。そして授業が終わった後の昼食に肉うどんが出てきました。その時の気持ちを想像してみてください。授業の回を重ねて慣れると遺体の臓器を部分的に取り出して触ったり、細部にいたっては小脳をスライスして染色された組織を顕微鏡で見るなどでは、単なる教材でしかないと言った感覚でした。学年が進み手術室での実習では開腹する医師の手元を眺め腹膜鉗子とか止血鉗子を執刀医の手元に黙々と渡すことを習い、取り出された臓器を見たときは何と美しい物だと感激したことも忘れられません。</p> <p>昭和四七年に腎臓摘出した時の傷痕は二十センチ今も残っています。さらに二十年後には内臓手術には内視鏡によるものが通常の手術として行われるようになって、私は八十歳で肺がんの手術を受け、元気で過ごしております。</p> <p>このように医術の目覚ましい進歩に伴い医学も当然細分化され奥深い学問になりましたが、人体の構造は本質的には変わっておりません。希望としてなるべく新しい遺体で解剖実習をしてもらえることを願い、私の献体の動機であることを記しました。</p> <p>以上</p>
3311	T.H. 様	<p>1988年11月に父が兵庫医大病院で亡くなった後、母が同大学で自らの献体手続きをした。</p> <p>その数年前、我が国のが医学部において解剖学用遺体不足の新聞記事を読んだ母は、直ぐに献体手続きしたかったのだが。父が反対した。その父が死に、通夜までに遺体を返すから解剖させて欲しい、また耳小骨の提供を、というリクエストを母は迷いなく快諾した。父の末期癌闘病中に、母は大学病院側の誠実な対応に感謝し、兵庫医大を信頼していたのだ。</p> <p>この母は、88歳で、まだ海外旅行ができるくらい元気だったのだが、神戸の有料老人ホームの大浴場で、ピンピンコロリと亡くなった。大浴場だから、他の入居者たちも一緒に利用中だったので、誰も洗い場の母の異変に気づかず、湯船に浸かっていた90代の女性が「さっきから、あの人、動かないわ」の言葉に抱き起こすと、既に心肺停止だったとか。死因は今もって不明だが、苦しんだ様子はなく、皆から羨ましがられる往生だった。</p> <p>駆けつけた私は、母の遺言通り、すぐに兵庫医大に連絡し、日付けの代わる前に遺体を引き取ってもらった。葬式なし、も母の遺言だった。</p> <p>それからまもなく、ごく自然な感じで、私も献体手続きをした。(母が亡くなった老人ホームでも、母にあやかりたいと献体希望者が増えたそうだ。いつも流行の先端をゆく母らしい。)</p> <p>ただし私には一人っ子で、子供もいないので、10年後には有料老人ホームに入り、死後はスムーズに兵庫医大に連絡を取ってもらわねばならない。6年前に定年退職して、終活断捨離の日々を送りながら、楽しめるうちにと、9センチヒールで六本木のディスコパーティに参加するなど、大いに遊び、母のようにピンピンコロリを狙っている。</p>
3589	K.I. 様	<p>昭和4年生まれ、96歳になります。献体手続きをしましたのは80歳でした。当時は健康そのもので、スポーツジムに30年、水泳、歩行、上半身の体力維持に気を付けておりました。図らずも昨年、呼吸器内科で入院加療、現在は自宅にて治療しております。</p> <p>私は昭和19年海軍兵学校合格、昭和20年4月に広島江田島の海軍兵学校に入校しました。受験は大連で初めて日本本土へ旅立ちました。7月に江田島湾での空襲、8月に広島に特殊爆弾、そして、終戦を迎え、海軍兵学校は閉校となり、金沢の祖母のもとに行きました。9月から10月にかけて、交通状況が最悪の中、姉や叔母の元を訪ねて土浦、東京、千葉県茂原、水戸、金沢と移動した。途中焦土化した東京～千葉は特に忘却できない惨事・景色であった(当時17歳)。11月に外地より引揚艦船の乗組員として勤務した。2月、舞鶴を出航し、佐世保と葫蘆島を10回往復した。次の大連は回航の予定たたず横須賀にて下船。9月末に勤務が終了し金沢に戻った。昭和22年に家族が大連より帰国したが、すぐに神戸の会社に勤務が決まり昭和23年4月より神戸での新生活が始まった。現在平和な日が送っているのは感謝のみです。</p> <p>平成21年9月に大連の同級生が兵庫医大に献体されています。私も当時より賛同。人生25年と覚悟していましたが、天命を全うし、お役に立てればと考えております。</p>
3592	H.S. 様	人生を終えてからも他人さまの役に立てるることは嬉しいことです

登録番号	イニシャル ペインネーム	メッセージ
3852	N.I. 様	この世で 私はどれだけの皆様からの愛を受けたか計り知れません。そして、どれだけの迷惑をかけたか…そう思うときに 検体を知りせめてこのような者でも医療のお役に立てれば、と心より願い 感謝なことに登録することを承諾され家族への理解も受けた次第です。ただ心配は1人住まいなので 良い状態での亡骸を！と思うと亡くなる少し前に連絡したいなあと。そして無宗教での兵庫医大の慰霊祭、慰霊塔なのでキリスト者のものしましてもありがとうございます。
4288	K.K. 様	私昭和15年4月11日超未熟児で産されました。母は病弱で私が1歳になるのを待ちかねてなくなりました 父の姉夫婦の養女となり可愛いがられ気ままに育ちましたが養父、兄、姉は亡くなり、母子家庭となりながらも不充無く育ちました 母からよく聞かされました。 Kちゃんは家族、親戚、周りの数えきりれない人達から愛を頂きながら今がある、それを絶対忘れてはなりません。85歳母の年を超きました 私与える事は何一つしておりません 今の私に出来る事は、献体 です。 未来のお医者さん、医療に お役に立てればこの上ない喜びでございます。
4444	M.Y. 様	難病で大学病院で治療中です。治験や最新治療で今の生活を送ることができます。私自身も何か医療に貢献できることがあればと主治医に相談し登録に至りました。
4637	M.F. 様	約6年前に献体の事を知りました 当時主人は《パーキンソン病》を発症して十数年たっていました。 献体の事を知り【こんな身体の僕でも人の役に立てる事あるなら亡くなつてからでも役立ててほしい】と言ったのがきっかけでした。 病気でおそらく先に逝くであろう主人に私もついて行こうと何のためらいもなく一緒に登録を決めました。 3年前に主人は亡くなり、初めて慰霊祭に出席した時【あー 主人の気持ちを尊重してもらえてる、主人の身体は大切に扱って貰える!】と確信し、穏やかな気持ちで帰路についた事を思い出します。 今は私が亡くなった時【献体登録】している事がちゃんと伝わり献体できるかしら?と心配しています。 今年、古稀を迎えた主人にはまだまだ会えそうにないですがいつか会ったとき 「貴方の分もいっぱい生きてきましたヨ」と報告したいです。
4638	トマト様	20年以上にわたり兵庫医大にはお世話になっております。せめてお役に立てればと献体をしようと思いました
4653	M.K. 様	私には、大変慕っている恩師がいます。 その先生の顔を見るだけで、声を聞くだけで、私の内側でエネルギーがどんどんと作られていくようで、いつも私を元気にしてくれる、私の心の栄養剤のような、そんな素敵なお先生でした。明るくて、えくぼが可愛い先生のその笑顔は、私だけではなく、周りの人達を幸せにしてくれました。 そんな先生が、小脳が萎縮していく難病に襲われ、10年の闘病の末に亡くなりました。65歳でした。 病気により体の運動機能が奪われ、先生は、歩いたり食べたり、話す事さえできなくなり、寝たきりになりました。私は、そんな先生に何も、全く何もできませんでした。会いに行く事ですら、年々減っていました。 先生が亡くなつてから、先生の病気について調べました。その病気は予後が悪く、診断後10年程で亡くなる例が多いと、少し調べただけで分かりました。 私は、大変後悔しました。先生の病気と向き合う事から逃げていた自分を責めました。どうしてもっと早くに病気について調べなかつたのか、先生の限られた時間にもっともっと寄り添えたのではないか… 両親が早世した私を、実の娘のように愛してくれた先生。私の大切なお母さんだったのに。 後悔ばかりして、一歩も動けなくなっていた頃、先生の病気を診断してくれたのは兵庫医大だったのを思い出し、何気なく兵庫医大のホームページを見ました。豊岡市在住だった先生は、体の不調を感じ近隣の医院を受診したものなかなか診断がつかず、兵庫医大にたどり着いたのでした。 その兵庫医大のホームページで献体の募集を知り、私はすぐに献体登録をする事に決めました。先生の病気には寄り添えなかつたけれど、未来の患者さん達には、献体という形で寄り添えると思ったからです。 献体に登録してもらい、私はやっと先生の死を受け入れる事ができました。先生に関する後悔は消える事はありませんが、献体として先生と同じ病気の人の役に立てるかもしれない、未来の医療の、社会の役に立てるかもしれないという可能性は、私の心をすっと楽にしてくれました。今は、何の社会貢献もできていない私ですが、この先献体として社会貢献ができると思うと、ワクワクとさえしてくるのです。そんな明るい気持ちは、先生からの贈り物のような気もします。献体登録を通して、今も先生と繋がっている私は、先生のように明るく元気に生を全うしようと、日々を頑張っています。献体登録は、新しい私の心の栄養剤になりました。献体に登録して頂き、心より感謝しています。ありがとうございました。
4779	K.H. 様	私の実母は101歳…父は94歳で余り苦痛もなく、大した痴呆もなく亡くなりました。きっと、私の父母の長命の遺伝子が、私にも引き継がれているのでは?と、思います。どうぞ…その遺伝子を、見つけて…俗に云う【ピンピンコロリ】に、役立て下さい。
4834	M.N. 様	兵庫医大では過去数多くの治療をしていただき、おかげで現在87才手術も過去9回そのほとんどが兵庫医大か其処出身の先生のお世話になりました。こんな、傷だらけ、で老化していますが。はたして、お役に立てるのか、でも、貴病院のおかげで家族の役にも貢献出来幸せを感謝！していますが、一端にこんな年取って ても大丈夫かな?と思います。

登録番号	イニシャル ペネーム	メッセージ
4849	S.T. 様	親しいご夫妻が亡くなった時、お二人共、岡山大学医学部に献体されました。この事がきっかけで自らの生涯を終えた後、自分の身体が医学生の育成に役立つことを願って献体することにしました。 以前、慰靈祭に参加した際、医学生が「献体に接することによって、医者としての謙虚さと真摯な態度を学ぶ機会となった」と、切々と話していました。印象に残っています。 倫理的な側面も心に留めて、勇気と志、そして使命感。医療の前進に役立てて下さい。
4934	A.O. 様	私は学生時代から献血を始め200回を超える回数を重ねました。また、骨髓バンクやアイバンクなどの臓器移植の登録も行いました。運転免許証の裏面にある臓器移植に関する意思表示には、「全ての臓器」と記していました。その後年齢を重ね、骨髓移植が出来なくなり、その他の臓器もくたびれてきたのではないかと思うようになりました。このまま私の臓器を提供することで一人の患者さんを救うより、献体によって多くの医学生の学びに生かしてもらったほうが、より一層多くの患者さんの命が救えるのではないかと考えるようになりました。登録してから早2年が過ぎました。平均寿命を全うすれば献体が出来るのはおよそ20年後です。それまでは楽しい人生を送り献体に備えたいと思います。
5075	M.S. 様	兵庫医科大学で人間ドック受診、胃癌見つかる 術後 献体決意する
5100	I.A. 様	医師だった私の母は、「私が死んだら母校に献体したいな。学生の時にお世話をになったからね」と言って、戦前の東京女子医専時代の思い出を語ってくれました。諸事情により母の願いは叶えられませんでしたが、せめて息子の私が献体することにより、母の思いを次世代の医学生に繋げることになればと、献体登録をすることに致しました。